

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 R7.3.28				
おひさまはうす きっず						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用者の特性や活動内容に応じて部屋を分けている。	まだまだ新型コロナウイルス等感染が危惧されるので、部屋の利用人数制限を設けていきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		子どもの特性や利用人数にも考慮した職員の配置に心がけている。	マンツーマンでの支援を要する児童に手を取られがちなので今まで以上に工夫した職員配置を考え実施していきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		利用者が見てわかるように掲示に工夫している。	車いす利用児のバリアフリー化にも取り組んでいきたい。(R6年現在、車いす利用者はいません。)
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・各部屋人数制限を設けて重ならないようにしている。 ・支援開始前と支援終了後は必ず掃除や消毒を徹底している。	2時間ごとに各部屋の窓や戸を開けて換気を徹底していきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウン等必要に応じてフリーに使える部屋を用意している。	フリーに使える部屋の環境をもっと整えていきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日ミーティングの中でPDCAサイクルに参画し、記録を残しそれを見直すことで支援に活かしている。	今まで以上に職員の見解を取り上げて実施していきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		全ての保護者に協力を仰ぎ、評価表を実施している。また、保護者と懇談する機会を設けている。	アンケートだけではなく、定期的に面談を実施して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげるように努力していきたい。
	8	職員の見解等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日ミーティングの中でいろいろな意見交換をしている。	その意見がより業務改善に繋がるようにしていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		多くの外部の方に協力を仰ぎ、評価してもらえように取り組んでいる。	これからも積極的に評価結果を業務改善につなげていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		勤務日を利用した研修の機会を設けている。	いろいろな研修に係る伝達研修を実施していきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			これからもアセスメントを適切に行うために状況を正しく評価、分析できる力を養っていきたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			職員の共通理解できる機会をもっと増やしていきたい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		毎日のミーティングの中で支援内容の確認をしている。	職員で個々の児童についての支援会議をもっと増やしていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		今後インフォーマルなアセスメントだけではなくフォーマルなアセスメントの活用も使用していきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			地域支援等、今まで以上に関係機関と密に連携していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		プロジェクトチームを立ち上げている。	全職員で立案できるようにしていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		いろいろな視点からたくさんの活用プログラムを取り入れるように工夫している。	マンネリ化しないように利用者のニーズに合った活動プログラムを工夫していきたい。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用者や保護者の願いも大切に支援計画を作成している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		ミーティングの中で必ず確認をしている。	勤務形態などによりミーティングに参加できない職員には打ち合わせの内容を伝えるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		次の日のミーティングで支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	今後、支援終了後に打ち合わせを行う時間を取れればと思うが、。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用者への支援を記録する担当の職員を固定して支援の検証、改善につなげている。	日々の支援記録を取ることで、子どもたちの支援、療育がおろそかにならないように注意している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		必要な利用者については随時モニタリングを行っている。	すべての利用者にモニタリングを定期的に行いたい。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			今までに数名のサービス担当者会議しかしなかったので増やしていけるようにしていきたい。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて連携した支援を行っている。	以前は自立支援協議会の子ども部会があったが、現在は活動していないので実施できるように協議会事務局に再度お願いしていきたい。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要な時だけ情報共有を行っている。	今後も定期的に情報交換の場を設けていけるように努力していきたい。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			すべての学校との連携ができるとは限らない。地域の小学校に理解していただけるよう働きかける。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○				今まで以上に機会を増やしていきたい。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○				保育所や認定こども園、幼稚園等の事業所に対する理解や協力が得られるように働きかけたい。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○				今まで以上に機会を増やしていきたい。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			必要な家族等への研修機会や情報提供等を行っている。	たくさん家族が参加していただけるように働きかけていきたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			再度説明の必要な保護者には納得していただけるまで丁寧に説明している。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				十分な時間を取って丁寧な説明を心がけていきたい。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				十分な時間を取って丁寧な説明を心がけていきたい。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			常時(24時間)電話対応できるようにしている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		コロナ禍が落ち着いてきたので、保護者会を以前のように開催していきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・ホームページ上や利用者メール・手紙等で予定を発信している。 ・また、活動プログラムに合わせてSNSで子どもたちの様子を配信している。	SNSで、活動プログラムの配信以外に日々の様子を配信していきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・パスワード保護をかけている。 ・また、保管場所にも施錠を実施している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・子どもや保護者の気持ちをいつも最優先に考えている。 ・SNS上でも写真にはぼかしを入れて配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		近隣の住民から畑を借り、農作物づくりを支援してもらっている。	近隣の方々には、継続して積極的にアピールしていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			保護者に周知されていないので、ホームページ等で再度周知していきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			今まで以上に訓練する機会を増やしていきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時に子供の様子をきちんと聞き取りをして情報を全職員へ共有している。	契約時だけでなく、来所時にも必ず確認していきたい。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			徹底できていないことも考えられるので、再度丁寧に取り組んでいきたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ミーティング時には、ヒヤリハットの事例を報告し合っている。	事例集は作成できているので、今後の課題にしたい。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止の研修会に職員を積極的に派遣している。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				